

第5回 奈良市市民参画及び協働によるまちづくり審議会 会議の概要		
開催日時	平成27年3月26日(木) 13時30分～15時00分	
開催場所	奈良市役所 中央棟5階 キャンペラの間	
議 題	1、開会 2、案件 (1)平成27年度のスケジュールについて (2)地域コミュニティ実態調査について (3)地域コミュニティワークショップについて (4)市民提案制度(奈良市協働政策提案制度)について 3、その他 4、閉会	
出席者	委員	澤井 勝 会長、中川 幾郎 副会長、伊藤 俊子 委員、 中川 直子 委員、中口 則弘 委員、室 雅博 委員、 渡邊 新一 委員【計7人出席】 (辻中 佳奈子委員、福尾 和子委員は欠席)
	事務局	今西市民活動部長、澤野井市民活動部参事、 堀内協働推進課長、園部地域活動推進課主幹、 高塚地域教育課主幹、 事務局(協働推進課まちづくり推進係)
開催形態	公開(傍聴人1人、報道関係者0人)	
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度のスケジュールについては、原案通り承認。 地域コミュニティワークショップの実施にあたり、地域別データを作成し、示すことで、地域の機運が高められるよう努める。 市民提案制度(奈良市協働政策提案制度)は、次年度以降も継続して審議し、9月頃を目途に市に設計の提案をいただく。 	
担当課	市民活動部 協働推進課	
議事の内容		
1、開会		
2、案件		
(1) 平成27年度のスケジュールについて		
事務局より資料1をもとに説明。委員からは特に意見なく、原案どおり承認。		
(2) 地域コミュニティ実態調査について		
事務局より資料2をもとに実態調査の報告を行った。		
<ul style="list-style-type: none"> ● 主な意見は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> よく整理していただいたと思うが、活動分野によって7つの団体区分に分けられており、くくりが大きすぎるように感じる。団体個々の特徴まで窺うことができないことには注意を払う必要がある。(室委員) この調査からは、概ね小学校区単位で活動している団体とそうでない団体との関わりがあまりないという状況が読み取れる。いかにして両者の相互理解を図っていくかが課題である。(室委員) アンケートの回収率が団体によって差が生じているが、電話等で催促はしたのか。(渡邊委員) <ul style="list-style-type: none"> →電話ではしていないが、郵送で催促状を送らせていただいた。それにより、回収率が上がった団体とそうでない団体がある。(事務局) 教育関係の団体の、「協働」の認知率がなぜ低いのか、検証をお願いしたい。(中川副会長) 		

(3) 地域コミュニティワークショップについて

事務局より資料3をもとに説明。

- 主な意見は以下の通り。
 - ・ 地域住民にワークショップの説明をする際には、ワークショップ、ファシリテーターといった横文字の言葉をできるだけわかりやすい言葉で説明していくという姿勢でお願いしたい。(渡邊委員)
 - ・ 地域で自主的に取組みを始めている地区だけでなく、機運が高まっていない地区にも働きかけていく必要がある。(伊藤委員)
 - ・ ワorkshopを実施する際には、地域住民に「自分達でやらなければ」という危機感を持ってもらえるよう、地区別のデータを数字で示すようにしてほしい。地区別のデータは防災・防犯、児童福祉など行政課題に対応させて整理した方がわかりやすい。また、全市的なデータではなく小学校区別のデータを整理し、その地域住民に知らせることは全国的な傾向であり、住民主体の地域づくりを考えるうえで重要になってくる。(中川副会長)
 - ・ 行政職員が参加する3回のワークショップだけでその地区の課題を出そうと急ぎ過ぎないほうが良いかもしれない。3回以外でも地域住民だけで集まってもらえるような機運づくりを目指すことが肝心である。(澤井会長)

(4) 市民提案制度（奈良市協働政策提案制度）について

事務局より資料4をもとに説明。平成27年9月ごろを目途に制度案を市に提案する形で進める。

- 主な意見は以下の通り。
 - ・ 市民提案制度が、「事業」提案制度と受け取られないようにするため、市からの情報発信にも工夫が必要である。(中川副会長)

3、その他

- 市民参画及び協働によるまちづくり推進計画実施計画の平成25年度事業評価について
⇒今回審議できなかったため、次回の審議会でご意見を伺う。
- 平成27年度第1回の審議会について
⇒5月21日（木）午前10時から開催する。場所は追って連絡する。

4、閉会

以上